

とう 闘 華 号外

発行:ユニオン東京合同

発行人:佐藤陽治

東京都千代田区三崎町2-17-8 皆川ビル301 朔気付

TEL&FAX 03-3262-4440

メール info@union-tg.org

ブログ <http://blog.union-tg.org/>

ホームページ <http://www.union-tg.org/>

郵便振替 00110-8-120661

反合理化・安全闘争を闘おう!

2・13 全国労働者総決起集会に結集した仲間のみなさん!

ユニオン東京合同から、10春闘と、本日の集会・JR東日本本社へのデモを共に闘うアピールを送ります。

JR東日本が4月からの実施を狙っている検修・構内業務の全面外注化は、JR東日本を数十数百の会社に分割し、闘う拠点・労組をつぶし、多くの労働者への非正規職化の攻撃です。「第2・第3の尼崎事故」を不可避とする激しい安全破壊です。日本階級闘争は今や「第2次国鉄分割・民営化阻止」とも言うべき決戦に本格的に突入しているのです。

国鉄闘争、反合理化・運転保安闘争は、いよいよ重要な闘いとなっています。資本が資本である限り、必ず金もうけのために安全を無視した合理化を推し進め、それによって労働者への搾取・収奪・団結破壊を極限的に強め、その結果、労働者は死んでも構わないとしていくのです。合理化粉碎闘争を徹底的に闘い抜くことは、この資本の無限の価値増殖運動との激突となります。資本主義の存続を前提とすると、合理化攻撃とは簡単には闘えません。階級的団結を固め、反合理化・反「安全破壊」を世界大恐慌と大失業の今こそ全職場で貫きましょう。安全闘争は、労働者の階級的怒りで「丸ごと決起」となります。民営化・外注化攻撃の最大の狙いは、労働者の分断と団結破壊です。労働者の団結の力で絶対に粉碎しましょう。共に闘いましょう。

★日本郵便・銀座支店でのエレベーター殺人事件を許さない!

09年12月14日、日本郵便銀座支店で、特殊郵便課の労働者が運転していた電動牽引車が、業務用エレベーターの扉が開いたため、本人もろとも1階のゴンドラ上に転落、労働者が死亡するという大事故が発生しました。労働者本人は、牽引車の下敷きになった際に頭を強く打ち、即死状態でした。民営化のついで労働者が殺されたのです。許すことはできません。現場のミーティングでは「本人の責任。安全運転を」などと事故責任を本人に転化しています。支店長からは未だに「謝罪」の一言もありません。安全確保の欠如欠落を完全に開き直っているのです。現場は本当に怒っています。「事故は本人の責任ではない」「本当のことを言え」「当局に責任を取らせよう!」と、怒りが沸騰しています。

「利益を出す」ことだけが一切である民営郵政の劣悪な労働環境と安全無視の作業指揮で、現場労働者が殺されたのです。郵政労働者25万人全員の安全にかかわる問題です。現場では当局への徹底的な責任追及が始まっています。3月12日(予定)「日本郵便銀座支店エレベーター死亡事故を絶対に許さない地域集会(仮称)」に結集して共に闘いましょう。

★児島解雇阻止闘争に勝利するぞ!

ユニオン東京合同の各分会の闘いはこの裏面に紹介していますが、なかでも全日本手をつなぐ育成会分会の児島解雇阻止闘争は本日の闘いの課題とも密接な関連のある闘いです。昨年、非正規職組合員の児島さんは、労災療養期間中であるにもかかわらず、「解雇の予告通知」攻撃を受けました。組合は、3波のストライキ闘争も含む職場闘争で「解雇の予告通知」を撤回させました。今年も解雇してくる可能性が十分にあります。絶対に負けられません。ユニオン東京合同は、闘う全国の非正規職労働者と連帯し、反合理化・運転保安闘争を闘う全ての国鉄労働者と団結して闘います。

【ブリタニカ分会報告】

英語版百科事典の販売と、英会話事業の営業をしていた日本ブリタニカ(株)の奥井社長は、2001年3月末、突然社員に5月末での事業閉鎖・全員解雇の通告をして、340名の社員の首を切った。それは解雇通告と同時に全国の英会話教室に閉鎖通告書を貼り出し、有無を言わせない事業閉鎖の既成事実をつくってしまうという暴力的な解雇だった。事業閉鎖を既成事実化した後の解雇理由の説明は、具体的な経理上の数字の裏付などない全く無責任なものであった。

奥井社長は、事業閉鎖はシカゴ本社の決定だから、社長、副社長をはじめ、全員が解雇になるといって社員に、解雇は不可抗力なのだと思わせ、日本法人である日本ブリタニカ(株)代表取締役社長としての解雇回避努力を一切放棄した。ところが奥井社長は首にならず、日本ブリタニカ(株)社長の契約を更新し、更に継承会社であるブリタニカ・ジャパン(株)の代表取締役社長に就任し、そのうえ、ブリタニカの全持株会社の日本代表にまで成り上がったのである。

一番に責任を取るべき社長が残り、340名の社員を犠牲にして放り出し、ブリタニカ事業を残したのだ。このような不当な解雇は許せないとして日本ブリタニカ(株)に対して、「泣き寝入りはしない!」・「外資企業の解雇のやり得を許さない!」闘争を継続している。

【育成会分会報告】

こんにちは。

私たち全日本手をつなぐ育成会分会は、東京にある「社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会」という知的障害のある人と家族の団体の職員の分会です。

2007年に職場で、「パワハラ事件」があったとして、理事会は「特別監査委員会」による「特別監査」を実施しました。でっち上げ「パワハラ事件」で、当時の事務局長が突然「解職」させられることがおき、職員はこのことに抗議し、話し合うことを使用者に申し入れましたが、話し合いには応じなかったため、労働組合(分会)を作り、団交の申し入れを行いました。4回の団交のあと、副島宏克(新)理事長は、07年7月には団交拒否をしてきました。その後団交には形式的に形骸化して応じるようになったものの、職員への攻撃は激しくなりました。組合と分会は08年の春闘では非正規職組合員の正規職化要求と残業代割増賃金未払いの問題で闘いました。

非正規職組合員の児島さんが08年2月に職場で業務起因の重度の腰痛症を被災し療養中の09年2月27日付で「1年間体調が整わず、療養していたために出勤できなかった」ことを理由に3月31日をもって

労働契約終了するという予告通知を出してきました。まぎれもない解雇攻撃でした。当該と組合は団交開催要求と、正規職組合員の3波のストライキ闘争も含む職場闘争で闘い、ようやく3月30日に予告を撤回させました。今年も雇用継続を約束する団交を開くように申し入れをしていますが、連続的に団交開催を拒否しています。職場闘争、団交(開催要求)、労働委員会闘争、地域と産別の労働者ネットワーク作りを4本柱に闘いの輪を広げながら、闘っていますが、児島解雇阻止闘争を今年の春闘最大のテーマにして闘います。

経営法曹は取りついた経営を変質させながら、労働者への攻撃を激化してきますので、私たちの分会の闘争のなかでも、懲戒請求などを行っています。また、使用者側の自己矛盾である、社会福祉法人・運動団体である特殊性もついて監事への措置請求を起こし、福祉業界全体の矛盾にも労働者階級の立場から取り組んでいます。労働者がひとつひとつ闘う方法を自分のものにしていくことが、労働者にこの世の中を動かしていく力があることを実感させ、また次の世の中のあり方を準備していきます。ともに闘いましょう。

【教育と探求社分会報告】

私たちはユニオン東京合同・教育と探求社分会といます。教育と探求社は『クエストエデュケーションプログラム』という教育プログラムを全国の学校に提供する会社で、毎年全国約1万人の中学から大学までの生徒・学生が取り組んでいます。代表取締役である宮地社長は昨年2月12日から13日にかけて突然全社員10名に対して虚偽の説明をした上、悪質な脅迫行為により退職強要を行いました。私たちは、この卑劣な退職強要による不当な解雇を絶対に許さず、この問題について解決を求めるために争議を行っています。

昨年末には和解に向かって話し合いが進んでいたにも関わらず、教育と探求社は経営法曹の弁護士をつけ、今までのことを振り出しに戻そうとしています。先日1月31日、団交を行いました。私たちは、宮地社長のこの悪徳な行為を絶対に許さず、どのような職場でも二度とこのようなことが起こらないよう最後まで闘っていきます。ぜひ多くのご支援をお願いいたします。詳しくは、私たちのブログやホームページをご覧ください。ありがとうございます。

ホームページ

<http://www.eduq-union.com/>

ブログ

<http://eduqunion.exblog.jp/>